



【アーティストサポート】へ、多くの皆様からお気持ちをお寄せいただきましたことに、心より感謝申し上げます。  
寄せられたご支援は、アーティストの様々な活動に幅広く使わせていただいております。

「人のいるところには夢がある」創業49年来のジャパン・アーツの理念です。  
どんな時代においても、音楽・芸術から生まれる感動は、人々に夢・希望・生きる力を与えてくれます。



アーティストサポートの詳細はこちらをご覧ください。

これまでの活動レポートは、ジャパン・アーツのホームページに掲載しておりますので、どうぞご覧ください。  
引き続き変わらぬご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

## 2024年度ご支援いただいた皆様

### <2024年度 年間サポート>

朝妻幸雄 F.A. 井上豊 岩村和央 上原啓子 上村憲裕 M.U. K.O. S.O. 小田島容子 片山由美子  
H.K. K.K. 栗田美知子 新貝康司 M.S. M.T. R.T. A.D. 田中治郎 F.T. ツルーラブ真智子  
ツルーラブ真凜 K.N. E.N. 兒子弥生 S.N. 長谷川智子 T.H. 樋口美枝子 M.H. 平山美由紀  
藤野盾臣 松尾芳樹 真野美千代 三木谷晴子 J.M. M.M.  
株式会社青林堂 株式会社セキド 三井住友カード株式会社  
株式会社ソーシャルキャピタルマネジメント 株式会社ロジックアンドエモーション  
ライブプラン株式会社 Heart of the Earth株式会社 きづきアセット株式会社  
(匿名希望 27名)

### <2024年度 福間洸太郎に「花を贈ろう！」>

あかほりみお 厚見有紀 F.A. J.A. 池田惇子 石黒裕康 石崎典子 井住智子 R.I. A.I. 岩塚究 K.U.  
M.E. 猿渡かおり M.E. 大畑篤子 大原志津子 大原みずほ 小山田美代子 カッキー 柿信子 柏香織  
T.K. 川島理絵 駒場雅世 A.K. 桜猫 桜井桂子 佐々木珠乃 佐野孝枝 A.S. N.S. 塩崎勢子 W.S.  
A.S. 新里真美子 進導幸太郎 鈴木志保里 N.S. 早田利江 高島秀子 鷹巣綾子 高田恵子 N.T.  
武田眞子 武田佳美 辻田奈津 土屋麻起 長江雅子 中嶋妙子 Y.N. 中島葉子 S.N. 中村祥子 A.N.  
K.N. 野口由美 H.N. 林順子 平井聖香 平山美由紀 深堀悦代 S.F. 伏見由加 A.H. R.M. K.M.  
三浦祐子 三浦洋子 村田恵美 村山幸恵 山口恵美 依田晴美  
(匿名希望 24名)

### <2024年 ウィーン少年合唱団 オフタイム・サポート>

井口和美 K.K. Rimiko M.H. M.M. 真野美千代 水足久美子 水足秀一郎 ロロコミ・リロコミ  
(匿名希望 12名)

### <2024年 ウィーン少年合唱団 ツアー・サポート>

井口和美 T.O. K.K. Rimiko M.T. 平山美由紀 細沼康子 M.M. 真野美千代 村瀬治男 ロロコミ・リロコミ  
(匿名希望 11名)

2024年12月8日現在 敬称略

ご支援についての詳しい内容は、どうぞ下記へお問い合わせください。

株式会社ジャパン・アーツ アーティストサポート係 Tel.03-3499-7720 (平日11:00~17:00 年末年始を除く)



© Christoph Köstlin

© Keita Osada (Ossa Mondo A&D)

# 榎本大進 & ラファウ・ブレハッチ デュオ・リサイタル

Daishin Kashimoto & Rafat Blehacz Duo Recital

2024年12月19日(木) 19:00 開演 サントリーホール  
7:00p.m. Thursday, December 19, 2024 at Suntory Hall

主催：ジャパン・アーツ

後援：ポーランド共和国大使館

ポーランド広報文化センター

協力：ソニー・ミュージック ジャパン インターナショナル  
ユニバーサル ミュージック



文化庁 劇場・音楽堂等における  
子供舞台芸術鑑賞体験支援事業

モーツァルト：ヴァイオリン・ソナタ 第17番 ハ長調 K.296

W. A. Mozart: Violin Sonata No.17 in C major, K.296

- 第1楽章：アレグロ・ヴィヴァーチェ 1st Mov.: Allegro vivace
- 第2楽章：アンダンテ・ソステヌート 2nd Mov.: Andante sostenuto
- 第3楽章：ロンドー、アレグロ 3rd Mov.: Rondeau. Allegro

ベートーヴェン：ヴァイオリン・ソナタ 第7番 ハ短調 Op.30-2

L. v. Beethoven: Violin Sonata No.7 in C minor, Op.30-2

- 第1楽章：アレグロ・コン・ブリオ 1st Mov.: Allegro con brio
- 第2楽章：アダージョ・カンタービレ 2nd Mov.: Adagio cantabile
- 第3楽章：スケルツォ、アレグロ 3rd Mov.: Scherzo. Allegro
- 第4楽章：フィナーレ、アレグロ 4th Mov.: Finale. Allegro

\* \* \* \* \*

ドビュッシー：ヴァイオリン・ソナタ ト短調

C. Debussy: Violin Sonata in G minor

- 第1楽章：アレグロ・ヴィーヴォ 1st Mov.: Allegro vivo
- 第2楽章：間奏曲、気まぐれで軽快に 2nd Mov.: Interimède. Fantasque et léger
- 第3楽章：フィナーレ、非常に快活に 3rd Mov.: Finale. Très animé

武満 徹：悲歌

T. Takemitsu: Hika(Elegy)

フランク：ヴァイオリン・ソナタ イ長調

C. Franck: Violin Sonata in A major

- 第1楽章：アレグレット・ベン・モデラート 1st Mov.: Allegro ben moderato
- 第2楽章：アレグロ 2nd Mov.: Allegro
- 第3楽章：レチタティーヴォ＝ファンタジア、ベン・モデラート 3rd Mov.: Recitativo-Fantasia. Ben moderato
- 第4楽章：アレグレット・ポーコ・モッソ 4th Mov.: Allegretto poco mosso

榎本大進&ラファウ・ブレハッチ 日本公演

12月11日(水)	札幌	札幌コンサートホールKitara	主催：北海道新聞社、エフエム北海道、道新文化事業社
12月14日(土)	川崎	ミュージアム川崎シンフォニーホール	主催：神奈川県芸術協会
12月15日(日)	所沢	所沢市民文化センター ミューズ	主催：(公財)所沢市文化振興事業団
12月17日(火)	水戸	水戸市民会館グロベリスホール	主催：(公財)水戸市文化振興財団 共催：水戸市民会館
12月19日(木)	東京	サントリーホール	主催：ジャパン・アーツ
12月20日(金)	名古屋	愛知県芸術劇場 コンサートホール	主催：中京テレビ
12月21日(土)	西宮	兵庫県立芸術文化センター KOBELCO大ホール	主催：兵庫県、兵庫県立芸術文化センター

学生サポートパートナー

この公演では、パートナー企業にチケット代の一部をご負担いただき、学生の皆さんがクラシック音楽に触れる機会を増やす【学生サポートパートナー】の取り組みを行っております。

- <パートナー企業> 株式会社ソーシャルキャピタルマネジメント 株式会社ロジックアンドエモーション  
ライフプラン株式会社 株式会社Heart of the Earth きづきアセット株式会社



榎本 大進 (ヴァイオリン)

Daishin Kashimoto, Violin

ロンドン生まれ。1990年、第4回バッハ・ジュニア音楽コンクールでの第1位を皮切りに、1996年のフリッツ・クライスラー、ロン＝ティボーの両国際音楽コンクールでの第1位など、5つの権威ある国際コンクールにて優勝。

3歳よりヴァイオリンを恵藤久美子に学ぶ。5歳でNYに転居し、7歳でジュリアード音楽院プレカレッジに入学、田中直子に師事。11歳の時、名教授ザハール・ブロンに招かれリユーベックに留学。20歳よりフライブルク音楽院でライナー・クスマウルに師事、グスタフ・シェック賞を受賞し修士課程を修了した。

これまで、ロリン・マゼール、小澤征爾、マリス・ヤンソンス、チョン・ミョンフン、パーヴォ・ヤルヴィなどの著名指揮者のもと、国内外のオーケストラと共演を重ねるほか、室内楽にも意欲的に取り組み、マルタ・アルゲリッチ、ギドン・クレーメル、ユーリ・バシメット、ミッシェル・マイスキー、エマニュエル・バユ、ポール・メイエなどの著名ソリストと共演。

2007年より、自身が音楽監督となって兵庫県赤穂市・姫路市を舞台に室内楽の国際音楽祭「ル・ボン(Le Pont)」を開始。フランス語で「架け橋」の意を持つ名前を冠した本音楽祭は、榎本の声がかけて世界一流の音楽家が毎秋参加し話題を呼んでいる。

2010年、日本人として史上2人目のベルリン・フィルハーモニー管弦楽団第1コンサートマスターに正式就任。オーケストラの顔として活動しているほか、本拠地ベルリンでの定期演奏会やヨーロッパ、アジア・ツアーでの演奏会などでソリストとしても共演している。

2023年、細川俊夫より捧げられた委嘱新作：ヴァイオリン協奏曲《祈る人》を、パーヴォ・ヤルヴィ指揮ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団と世界初演し、同年夏にセバスティアン・ヴァイグレ指揮読売日本交響楽団と日本初演を行った。

主なCDは、2014年にワーナー・クラシックスから世界リリースもされた、コンスタンチン・リフシツとの「ベートーヴェン：ヴァイオリン・ソナタ全集」など。

1995年アリオン音楽賞、1997年出光音楽賞、モービル音楽賞、1998年新日鉄音楽賞フレッシュアーティスト賞、平成9年度芸術選奨文部大臣新人賞、2011年兵庫県文化賞、チェンジメーカー2011クリエイター部門、2017年姫路市芸術文化大賞、ドイツに於いてはシュタインゲンベルガー賞、ダヴィドフ賞を受賞。2019年12月より、HiFiオーディオ製品ブランド「VELVET SOUND」(旭化成エレクトロニクス)公式アンバサダー。

使用楽器は、株式会社クリスコ(志村晶代表取締役)から貸与された1744年製デル・ジェス「ド・ベリオ」。



Daishin Kashimoto, Violin

## ラファウ・ブレハッチ (ピアノ)

Rafal Blechacz, Piano



© Marco Borggreve

2005年、第15回ショパン国際ピアノ・コンクール優勝。マズルカ賞、ポロネーズ賞、コンチェルト賞、ソナタ賞(クリスチャン・ツィメルマンにより創設)、聴衆賞と全てを同時受賞。同世代で最高のショパン弾きと称される。

また2014年には、4年に1度、年齢や国籍に関係なく、卓越した優れたコンサート・ピアニストに贈られるギルモア・アーティスト賞を受賞した。

これまでに、ロンドン・フィル、バーミンガム市響、パリ管、ベルリン・ドイツ響、フランクフルト放送響、ドイツ・カンマーフィル、マーラー室内管、ウィーン放送響、カメラータ・ザルツブルグ、ロッテルダム・フィル、サンタ・チェチーリア国立アカデミー管、チューリッヒ・トーンハレ管、ミネソタ管、デトロイト響、モントリオール響などと共演し、シャルル・デュトワ、ワレリー・ゲルギエフ、ダニエル・ハーディング、パーヴォ・ヤルヴィ、ファビオ・ルイーゼ、アンドリス・ネルソンス、ミハイル・プレトニョフなど世界的な指揮者と共演。

また、ベルリン・フィルハーモニー、ミュンヘン・プリンツレーゲンテン劇場、コンツェルトハウス・ドルトムント、パリのサル・プレイエル、ロンドンのウィグモアホール、アムステルダムのコンセルトヘボウ、ミラノ・スカラ座、ウィーン・コンツェルトハウス、パレ・デ・ボザールなど、世界の主要なコンサートホールの他、アメリカやアジアでもリサイタルを行っている。

2024/2025シーズンはケント・ナガノ指揮ハンブルク州立歌劇場管との共演からはじまり、その後、ミラノ・スカラ座、デュッセルドルフ・トーンハレ、ミュンヘンでのリサイタル、中国、日本、韓国でのツアーなどが予定されている。

ドイツ・グラモフォンの専属録音アーティスト。ショパンの前奏曲集を録音したデビュー盤は、母国ポーランドでプラチナ・レコードに認定、またドイツのエコー・クラシック賞やフランスのディアパソン・ドール賞を受賞。また、イェジー・セムコフ指揮ロイヤル・コンサートヘボウ管弦楽団とのショパンのピアノ協奏曲の録音は、ドイツ・レコード批評家賞を受賞。さらに、ショパンやバッハの作品を収録したアルバムや、ヴァイオリニストのボムソリとのデュオ・アルバムは、近年リスナーやマスコミより好評である。

批評家たちからはこれまでの芸術的功績を讃えてキジアナ音楽院国際賞(イタリア)を2010年に贈られる。また、2015年にはポーランド共和国大統領メダルであるポーランド復興勲章カヴァレルスキ十字勲章を授与された。

Rafal Blechacz,  
Piano

## モーツァルト: ヴァイオリン・ソナタ第17番 ハ長調 K.296

1777年9月、ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト(1756-91)は、求職を主目的とする「マンハイム・パリ旅行」に出た。そして途上のミュンヘンでドレスデンの宮廷楽長ヨーゼフ・シュースター(1748-1812)が作曲したチェンバロとヴァイオリンのためのソナタ集を知り、両楽器が対等なその二重奏原理に刺激を受けた彼は、同様の作品の創作を企図した。1778年3月11日にマンハイムで完成された本作もそうして生まれた曲の1つ。同旅行中には出版を目的としたソナタが多く書かれたが、この曲はそれらと違って、マンハイムでの滞在先ゼラリウス家の15歳の女性で、モーツァルトがクラヴィーア(ピアノ)を教えていたテレゼ・ピオロン嬢のために作曲された。それゆえ全体がピアノを中心に進行する、優雅で清新な音楽となっている。

**第1楽章:** アレグロ・ヴィヴァーチェ。動的な2つの主題を軸に運ばれる活力に溢れた楽章。

**第2楽章:** アンダンテ・ソステヌート。のびやかで美しい緩徐楽章。主要主題は、モーツァルトが強い影響を受けたヨハン・クリスティアン・バッハのアリア「甘きそよ風」に拠っている。

**第3楽章:** ロンドー、アレグロ。軽快に疾走する Rondó 形式のフィナーレ。短調の第2エピソードが印象深い。

## ベートーヴェン: ヴァイオリン・ソナタ第7番 ハ短調 Op.30-2

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン(1770-1827)のヴァイオリン・ソナタは、全10曲中9曲が中期直前の1798~1803年に集中して完成され、両楽器対等の二重奏ソナタのスタイルが短期間で確立された。第7番は、1801~02年に作曲された「Op.30」の3曲のソナタ(第6~8番)中の1曲。初演等の経緯は不明だが、Op.30はロシア皇帝アレクサンドル1世に献呈されている。なお「ハイリゲンシュタットの遺書」が書かれた1802年は、耳の病が深刻化しながらも、交響曲第2番等を完成させた上昇期にあたる。

本作は、「春」[「クロイツェル」]に続く人気を誇る傑作。ベートーヴェンの「運命の調」ハ短調が生み出す緊迫感と力感が特徴をなし、短調の両端楽章と長調の中間2楽章の対照も効果を上げる。

**第1楽章:** アレグロ・コン・プリオ。冒頭の第1主題と付点リズムの第2主題を軸に展開される劇的な音楽。

**第2楽章:** アダージョ・カンタービレ。繊細で清らかな長調の緩徐楽章。中間部は短調に変わる。

**第3楽章:** スケルツォ、アレグロ。軽妙で簡潔なスケルツォ。時おり意表を付くアクセントが現れる。

**第4楽章:** フィナーレ、アレグロ。緊迫感が漂う Rondó 形式のフィナーレ。長調の副主題を挟みながら、迫力充分に進行する。

## ドビュッシー: ヴァイオリン・ソナタ ト短調

近代フランスの大家クロード・ドビュッシー(1862-1918)は、最晩年に「さまざまな楽器による6つのソナタ」の作曲を計画した。彼はここで、楽譜に「フランスの音楽家ドビュッシー作曲」とあえて記し、「ソナタ」というドイツ的な形式に初めて挑んだ。これは、1914年に勃発した第一次世界大戦の敵国への対抗心と、旧来の形態の中にフランス的な感性や自身の個性を盛り込んで新たな音楽を開拓せんとする意欲ゆえだった。しかし1915年に「チェロとピアノ」「フルート、ヴィオラとハープ」の2曲のソナタを

完成後、直腸癌が発覚。全6曲の完成は死に阻まれ、当ソナタが生涯最後の作品となった。

本作は、1916～17年、病気との苦闘の中で作曲され、1917年5月パリで初演された。曲は、実質的な緩徐楽章を欠いた3楽章構成。苦難を物語る緊迫感を漂わせながらも、最晩年の清澄で研ぎ澄まされた感覚がまさった、精妙な音楽が展開される。

**第1楽章：**アレグロ・ヴィーヴォ。3部分から成る、簡潔で幻想味を湛えた音楽。

**第2楽章：**間奏曲、気まぐれで軽快に。カデンツァ風の序奏に始まる、変化に富んだスケルツォ的楽章。

**第3楽章：**フィナーレ、非常に快活に。第1楽章の主題を回想後、活気に充ちた楽想が展開。

途中でスペイン風の遅い部分が挟まれる。

## 武満徹：悲歌

日本きっての国際的作曲家、武満徹(1930-96)が1966年に作曲した、5分ほどの小品。大阪労音の依頼で書かれ、同年11月、江藤俊哉のヴァイオリン、道志郎のピアノで初演された。1959年に瀧口修造の詩に靈感を得て書かれたピアノ曲「遮られた休息」の第3曲「愛のうた」の素材に基づく作品で、武満自身は「『自然』に対しての感謝の念を表した作品の1つ」との旨を述べている。緊張感漂う空間の中で、自在性の高い表情豊かなヴァイオリンと点描的なピアノによるデリケートかつ密度の濃い音楽が繰り上げられる。

## フランク：ヴァイオリン・ソナタ イ長調

パリで活躍したドイツ系ベルギー人作曲家セザール・フランク(1822-90)の代表作の1つ。フランス系音楽における最重要ソナタにして、同ジャンル屈指の人気作である。フランクの主要曲の大半は晩年に書かれており、この曲も1886年=64歳の年の作。同郷ベルギーの名奏者ウジェーヌ・イザイ(1858-1931)に結婚祝いとして贈られ、同年ブリュッセルで初演された。

曲は、バッハ研究も行ったフランクのドイツ的な特質とフランス的な美感が融合した独特のテイストを持ち、フランクお得意の「循環形式」が徹底された—第1楽章冒頭の主題が、全楽章の楽想の基盤となる—ことに拠る統一感と、各楽章の明瞭な性格の違いが見事に両立している。

**第1楽章：**アレグレット・ベン・モデラート。優美な主題(最初の3音が全曲の中心)に始まる静謐な音楽。下行する第2主題は主にピアノで奏される。

**第2楽章：**アレグロ。一転して力強く情熱的な短調の楽章。切迫した第1主題と美しい第2主題が対比されながら進む。

**第3楽章：**レチタティーヴォ=ファンタジア、ベン・モデラート。自由な形式で書かれた緩徐楽章。調性が移ろいゆく中、抒情的で表情豊かな語りが続く。

**第4楽章：**アレグレット・ポーコ・モツォ。冒頭の主題を軸に運ばれるロンド形式の明朗なフィナーレ。